

目次

一、プログラム	7
二、基調講演 *オンライン中継	11
移民時代の対外日本語コミュニケーション	
東京外国語大学大学院国際日本学研究院 荒川洋平教授	12
植民地期の修身・国語教科書にみられる時代の背景と言語教育	
— 『国定一』・『台湾一』・『朝一』の国語教科書の漢字教育を通して—	
水原科学大学ホテル観光サービス学科・学科長 朴英淑教授	18
三、研究発表	29
(一) 語学・教育学	
新型コロナウイルス対策としての遠隔授業の難点と改善—会話授業に着目して—	
淡江大学 蔡欣吟	30
日本語教育におけるメディアリテラシー教育の問題点	
—台湾人学生によるインターネット利用の実態分析から—	
文藻外語大学 小高裕次	31
日本で働いた台湾人の滞在前から帰国後までの過程における共通点	
—複線経路・等至性アプローチ (TEA) からの考察—	
文藻外語大学 久保田佐和子	32
台湾における教材としての日本語歌曲の可能性	
実践大学 伊志嶺安博	33
受動文理解のための視点を取り入れた映像教材作成	
中臺科技大學 鈴木美穂	34
コロナ以後の日本語教育を考える—日本語教育史の観点から *オンライン中継	
フリーランス日本語教師養成講座講師 泉史生	35
「二人」は「一人」とどう違うか—中国語を母語話者の数量表現に注目して—	
靜宜大學 陳嬾如	36

「絵を見てストーリーを話す授業」を通じた口頭能力の向上	実践大學 関口要	37
丁寧体過去形式「かったです」の動向—大規模コーパス等を例として—	南臺科技大學 神作晋一	38
日本語教育アシスタントの異文化コミュニケーション能力に関する一考察	臺灣海洋大學 張皓	39
(二) 文学		
法隆寺二天光背銘再考	靜宜大學 賴衍宏	40
ポーランド文学の日本訳と中国語訳		
—オルガ・トカルチュクの『昼の家、夜の家』を例として—	臺北大學 蔡明興・醒吾科技大學 蔡麗莉 (Natalia Tsai)	41
『仮名列女伝』における古典利用—北村季吟の訳の和風化を中心に—	靜宜大學 陳羿秀	42
向田邦子作品の語彙—随筆を対象として—	東吳大學博士課程 池田晶子	43
(三) 歴史・社会・文化		
学校教育におけるアクティブラーニングの位置づけとその効果	文藻外語大學 董莊敬	44
日本育ちの日台国際児から垣間見える「日台関係」		
—台湾の日本語学科在籍生の成長経験から—	淡江大學 中村香苗	45
母語のゆくえ (日本統治時代経験者Rさんのオーラル・ヒストリーより)	靜宜大學 横川彰	46
養子法の日中台比較 *オンライン中継	立教大學 高橋孝治	47